

提 案 概 要

実施期日	7月31日(金)
部 会 名	中学校 社会部会

1 提案テーマ 『社会的な見方・考え方を養う、小中連携を意識した授業作り』

2 単元(題材) 歴史的分野 歴史のとらえ方

3 学年 第1学年

4 平成27・28年度神奈川県中学校教育課程研究会研究主題とのかかわり

- ①小学校社会科の内容との関連及び各分野相互の有機的な関連を図った年間指導計画、評価計画の作成
- ③社会的事象に対する関心を高め、よりよい社会の形成に自ら参画していく資質や能力を育成するための学習指導と評価の工夫・改善

5 学習指導要領との関連

第2章 第2節 各分野の目標及び内容〔歴史的分野〕2 内容(1) 歴史のとらえ方 ア

我が国の歴史上の人物や出来事などについて調べたり考えたりするなどの活動を通して、時代の区分やその移り変わりに気付かせ、歴史を学ぶ意欲を高めるとともに、年代の表し方や時代区分についての基本的な内容を理解させる。

6 実践に向けての課題意識

小学校社会科の歴史的分野では歴史上の人物を何人か取り上げ、その人物について学習を進める形態になっている。歴史上の人物が大きな歴史の流れの中でどのように位置づけられるのか。中学校での学習への架け橋として今回授業を行うことにした。中学校では小学校で学んだ人物を大きな歴史の中に位置づけ、歴史を大観させたい。今回は支配というキーワードを元に、歴史が現代とどのようにつながっているのか。これから歴史を学ぶ中学生に小学校での学習内容を踏まえ、歴史の大きな流れをつかむきっかけとなるような問いかけをしてみたい。

7 実践の概要

歴史を学ぶとはどういうことなのか。現代とどうつながっているのか。小学校で学んだ学習内容が細切れにならないように工夫した。現代までの支配の仕組みをおおまかに理解し、現代に至るまでの支配について考えたい。支配が無かった時代から、権力が一カ所に集中した時代、国民一人ひとりに権力が移行した時代、という歴史の大きな流れをつかむための手立てを考えてみたい。

8 成果と課題

小学校6年生を対象に授業を行ったところ、支配や政治などの抽象的な言葉をいかに具体的にイメージさせるかがキーポイントであると感じた。歴史が昔の出来事で終わることのないように、人物が歴史のなかでどのように位置づけられるのかを意識し、現代とつながるように発問を工夫した。班活動では活発に意見交換がなされ、学習の深まりを感じた。また、小学生と中学生で言葉の概念や深まりに多少の違いはあるにしても、基本的な「考える力」に大きな差異は無いと感じた。中学校の教員が小学校「社会」の学習内容を把握し、その実態を知ることで、中学校でどのような授業を行うことが有効であるのか、その一端を知ることができた。中学校の教員が小学校で授業を行う機会は多くないが、これからも小学校「社会」の学習内容を踏まえ、義務教育9年間で身につけさせたい力を、小学校の先生とともに考えていくことがこれからの課題である。

9 予想される協議の柱

- ・小中連携の実践例
- ・歴史を大観させるために、どのような発問が生徒にとって有効であるか(具体的な実践例)